

日々の研究開発から唯一無二の強みを発揮し、国内外で超音波検査機器の分野を牽引

同社は、原子力発電所の超音波検査用プローブの専門メーカーとして設立。主に、超音波プローブ、超音波パルスレシーバを開発・製造し、超音波プローブの種類は800種におよび、国内トップクラスのシェアを誇る。

現在は、工業用の非破壊検査での事業展開が主軸であるが、医療系分野の大学やメーカーからのオファーも多い。超音波検査の計測技術の高度化をはじめ、各分野のニーズにも幅広く対応し、国内外での超音波検査・計測技術分野を牽引する企業である。

●所在地 神奈川県横浜市南区中村町1-1-14
●電話/FAX 045-242-0531 / 045-242-0541
●URL <http://www.jp-probe.com>
●代表者 代表取締役社長 小倉 幸夫

●設立 1979年
●資本金 5,500万円
●従業員数 42人



ホームページの多言語対応化から、アジアを中心に商圈を拡大

同社ではホームページを多言語化(英語・中国語・韓国語)し、製品・技術等を画像や動画と共に紹介している。その結果、問い合わせ件数はこの1年で3倍に増加し、世界全域から寄せられている。問い合わせ件数が最多の韓国では、現地代理店と密に連携し韓国出身の同社社員が対応することで円滑な意思疎通が図られている。今年度からは韓国大学生のインターンシップの受入開始など、体制の維持強化を図る考えである。



外国人学生のインターンシップ

『京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区』の活用

横浜を含む臨海エリアには、医療機器メーカー系関連企業の研究開発施設をはじめ、医科系大学や医療施設が多く集積している。このため、研究開発の基礎となる医療分野のニーズ収集や大学のシーズ獲得が容易なものとなっている。さらに、連携先となる医療機器メーカーが多数集積する地域特性を活用し、乳がん検査用プローブ(大学と連携)、中心静脈穿刺用プローブ開発(メーカー、大学と連携)等、産学連携や産産連携による機器開発の促進や実用化を目指している。



曲がるプローブ「曲探」による乳がん検査イメージ

超音波プローブの新分野への参入

同社では医療分野への参入を検討している。医療機器製造業の承認も取得しており、今後の開発に向け、品質及び安全の管理において高水準の体制を敷く。なお、内閣府総合科学技術・イノベーション会議が主導するImPACTの一環として、1024個の超音波受信用圧電素子をお椀状に配置した超音波センサを開発した。光超音波イメージング法による非侵襲で生体の血管網と血管状態をリアルタイムで3Dイメージングすることにより、早期診断や身体機能モニタリングの実現を目指している。



お椀型超音波センサモックアップと手掌の光超音波画像